

## 2. 全数把握対象感染症患者届出状況

### (1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

疾患名	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
二類 結核	123	131	95	80	117
三類 腸管出血性大腸菌感染症	17	19	19	11	19
四類	A型肝炎	1	0	1	0
	重症熱性血小板減少症候群	0	3	1	4
	つつが虫病	3	0	2	2
	日本紅斑熱	7	10	13	7
	ライム病	0	0	0	1
	レジオネラ症	21	23	17	14
五類	アメーバ赤痢	1	2	2	1
	ウイルス性肝炎 (E型、A型を除く)	1	0	1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	7	13	11	1
	急性脳炎	0	1	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	3	0	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	0	2	5
	後天性免疫不全症候群	3	4	4	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5	3	2	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	7	6	5	2
	水痘 (入院例)	3	4	1	0
	梅毒	23	21	67	78
	播種性クリプトコックス症	2	4	2	0
	破傷風	1	4	1	2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	0	0	0
	百日咳 <sup>1)</sup>	3	43	67	78
△	新型コロナウイルス感染症 <sup>2)</sup>	199	3,092	130,116	34,779

1) 平成30年1月1日から定点把握対象疾患（五類感染症）から全数把握対象疾患感染症へ変更された。

2) 令和2年2月1日から指定感染症に追加指定、令和3年2月13日から新型インフルエンザ等感染症に変更、令和5年5月8日から定点把握対象疾患感染症（五類感染症）へ指定された。

## (2) 各疾病の届出状況

### 《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

### 《二類感染症》

#### ① 結核

年間届出数は 117 件で、前年（80 件）から増加した。

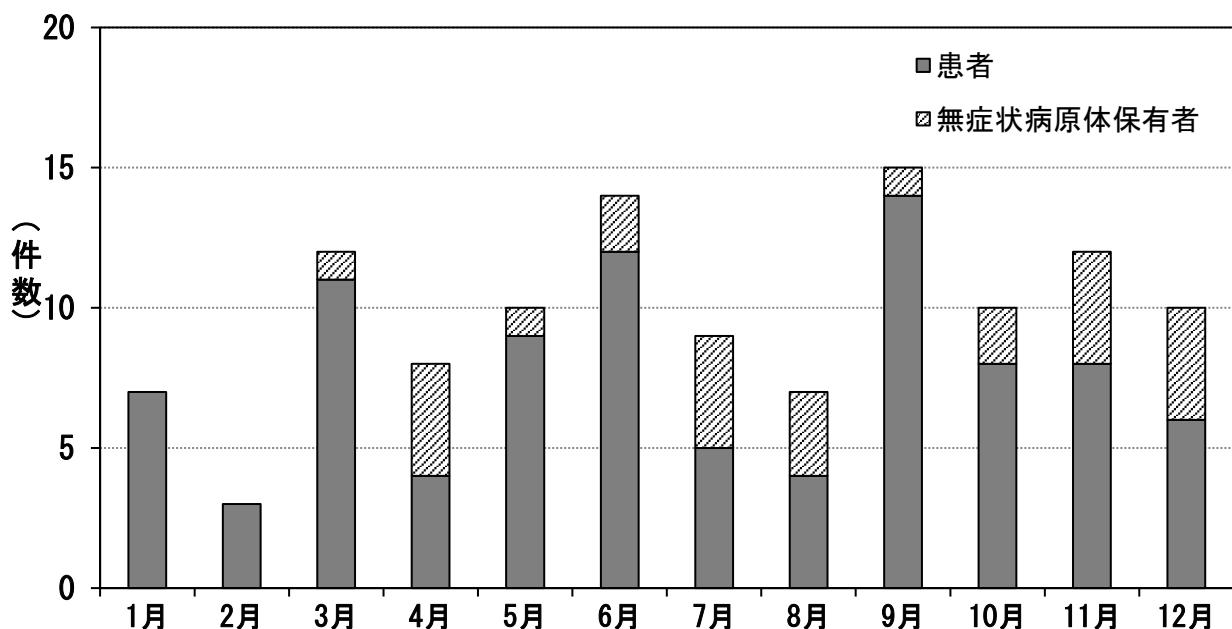
診断の類型では、「患者」が 91 件（内訳：肺結核 58 件、その他の結核 26 件、肺結核及びその他の結核 7 件）、「無症状病原体保有者」は 26 件であった。

年齢別にみると、70 歳代（25 件）、80 歳代（26 件）、90 歳以上（26 件）と、70 歳以上の届出が合計 77 件となり、全体の約 66% を占めた。20 歳代は昨年（2 件）から 12 件に増加しているが、このうち 8 件は国外（インドネシア、ネパール、ベトナム、西スマトラ）での感染が推定された。国内感染は 3 件、不明が 1 件であった。

性別では、男性 55 件、女性 62 件と女性が多かった。

職業別では、医療・介護などの施設関係者や会社員等、集団感染に繋がる環境で従事する者も見られたことから、感染拡大防止のため施設関係者等に対し、感染予防啓発や施設内感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

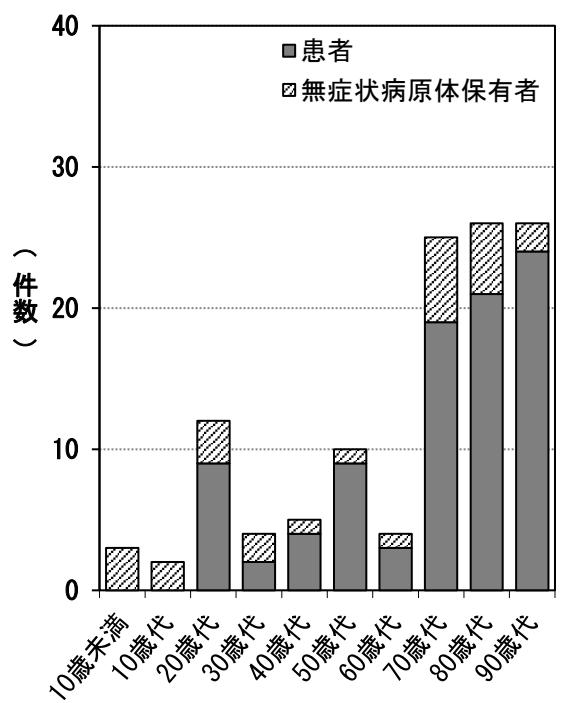
【結核の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	1	2	3
10歳代	0	2	2
20歳代	7	5	12
30歳代	1	3	4
40歳代	0	5	5
50歳代	7	3	10
60歳代	0	4	4
70歳代	14	11	25
80歳代	14	12	26
90歳以上	11	15	26
計	55	62	117

【年齢・症状別届出数】



### 《三類感染症》

#### ② 腸管出血性大腸菌感染症

年間届出数は19件で、前年（11件）から増加した。月別の届出数推移では、7月から9月にかけて14件と全体の約74%を占めた。

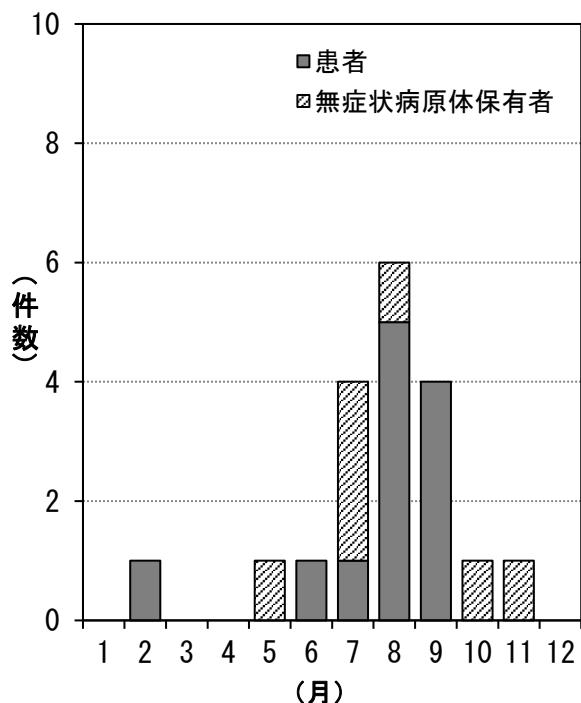
年齢別では、10歳未満から70歳代まで幅広い年齢層で届出があり、性別では、男性6件、女性13件であった。診断類型では「患者」が12件、「無症状病原体保有者」が7件と、「患者」が多く、症状は腹痛、水様性下痢、血便、発熱など複数にわたっていた。血清型別は、最も多いO157が11件、O111が5件、O103が2件、O121が1件であった。

推定感染経路は、経口感染9件、接触感染1件、経口感染又は接触感染2件、不明7件で、推定感染地域は、国内14件、不明5件であった。

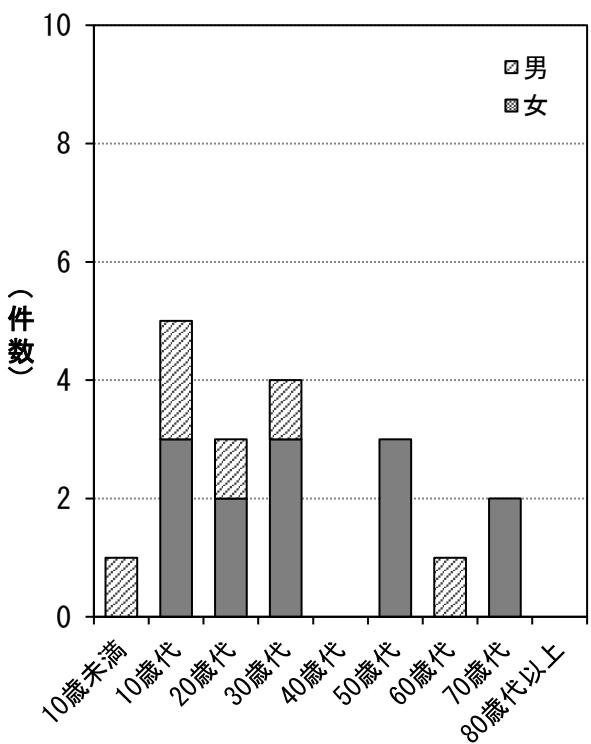
診断月	性別	年齢	症状	型別	推定感染地域
2月	男	10歳代	腹痛、水様性下痢	O157(VT1VT2)	国内
5月	女	50歳代	なし	O111(VT1)	国内
6月	女	10歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157(VT2)	国内
7月	女	30歳代	なし	O111(VT1)	不明
7月	女	50歳代	なし	O111(VT1)	不明
7月	女	30歳代	なし	O103(VT1)	不明
7月	女	10歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157(VT1VT2)	国内
8月	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O111(VT1VT2)	国内

8月	男	30歳代	腹痛、水様性下痢	O157(VT2)	国内
8月	女	20歳代	腹痛、水様性下痢、嘔吐	O157(VT2)	国内
8月	女	70歳代	なし	O157(VT2)	国内
8月	女	10歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157(VT1VT2)	国内
8月	女	70歳代	腹痛、水様性下痢	O157(VT2)	国内
9月	男	10歳未満	水様性下痢、血便	O157(VT1VT2)	不明
9月	女	50歳代	腹痛、軟便	O157(VT1VT2)	国内
9月	女	30歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O121(VT2)	国内
9月	男	10歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157(VT1VT2)	国内
10月	男	60歳代	なし	O103(VT1)	不明
11月	女	20歳代	なし	O111(VT1)	国内

【腸管出血性大腸菌感染症の月別・症状別届出数】



【腸管出血性大腸菌感染症の年齢・性別届出数】



#### 《四類感染症》

##### ③ A型肝炎

年間届出数は1件であった。推定感染地域は国外（パキスタン）で、推定感染経路は不明であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
8月	女	10歳代	肝機能異常	不明	国外

#### ④ 日本紅斑熱

年間届出数は8件で、前年(7件)から増加した。届出月は8から11月と、マダニの活動時期と一致していた。年齢別は60歳代2件、70歳代6件で、性別は男性4件、女性4件であった。推定感染経路はマダニ等の動物・蚊・昆虫からの感染で、推定感染地域は県内であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
8月	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニからの感染	県内
9月	女	60歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹	マダニからの感染	県内
9月	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニからの感染	県内
9月	女	70歳代	発熱、刺し口、発疹、全身倦怠感	マダニからの感染	県内
10月	男	70歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常、消化器症状(嘔吐、下痢)	マダニからの感染	県内
10月	女	60歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニからの感染	県内
10月	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	動物・蚊・昆虫等からの感染	県内
11月	女	70歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、息苦しさ、倦怠感	動物・蚊・昆虫等からの感染	県内

#### ⑤ レジオネラ症

年間届出数は23件で、前年(14件)から増加した。内訳は、病型では肺炎型20件、ポンティアック熱型2件、無症状病原体保有者1件であった。年齢別では30歳代1件、40歳代1件、50歳代3件、60歳代4件、70歳代5件、80歳代4件、90歳代5件であり、性別は男性13件、女性10件であった。

推定感染経路は水系感染6件、塵埃感染3件、水系又は塵埃感染1件、その他4件、不明9件であり、推定感染地域は国内22件、不明1件であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	女	60歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎、低Na血症、CK上昇	水系感染	国内
1月	女	80歳代	発熱、呼吸困難、下痢、意識障害、肺炎	その他	国内
1月	女	80歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
3月	男	50歳代	発熱、咳嗽、意識障害、肺炎、多臓器不全	不明	国内
5月	男	60歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難	塵埃感染	国内
5月	男	60歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、下痢、肺炎	水系感染	国内
5月	女	70歳代	なし	不明	不明
5月	男	90歳代	発熱、肺炎	不明	国内

6月	男	50歳代	発熱、咳嗽、下痢、肺炎	不明	国内
6月	男	70歳代	発熱、咳嗽、肺炎	その他	国内
7月	男	40歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系又は塵埃感染	国内
7月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎、多臓器不全	塵埃感染	国内
7月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、多臓器不全	水系感染	国内
7月	女	80歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	その他	国内
9月	女	30歳代	発熱、関節痛	水系感染	国内
9月	男	60歳代	発熱、肺炎	塵埃感染	国内
9月	女	80歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
9月	女	90歳代	呼吸困難、肺炎、痰	不明	国内
9月	女	90歳代	発熱、多臓器不全	不明	国内
10月	男	50歳代	発熱、咳嗽、肺炎	その他	国内
10月	女	90歳代	発熱	水系感染	国内
11月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
11月	男	90歳代	発熱、咳嗽、意識障害、肺炎	水系感染	国内

#### 《五類感染症》

##### ⑥ アメーバ赤痢

年間届出数は3件であった。内訳は、病型では腸管アメーバ症2件、腸管外アメーバ症1件であった。年齢別は50歳代1件、60歳代2件で、性別はすべて男性であった。推定感染経路は性的接触1件、その他2件で、推定感染地域は国内2件、国外（シンガポール）1件であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	50歳代	下痢	その他	国内
7月	男	60歳代	発熱、肝膿瘍	その他	国外
11月	男	60歳代	下痢、大腸粘膜異常所見	性的接触	国内

##### ⑦ ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

年間届出数は1件で、過去10年間の届出数は0から2件で推移している。年齢は10歳未満で、性別は女性であった。病原体はコロナウイルスOC43及びヒトライノ/エンテロウイルスが検出されており、推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	女	10歳未満	発熱、肝機能異常	不明	国内

## ⑧ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

年間届出数は 10 件であり、前年（1 件）から増加した。内訳は、性別では、男性 7 件、女性 3 件で、年齢別では、50 歳代 3 件、60 歳代 1 件、70 歳代 1 件、80 歳代 2 件、90 歳代 3 件であった。推定感染経路は手術部位感染 2 件、以前からの保菌 1 件、医療器具関連感染又は手術部位感染又はその他 1 件、その他 2 件、不明 4 件で、推定感染地域はすべて国内であった。

分離された菌種は、*Klebsiella aerogenes* 3 件、*Escherichia coli* 4 件、*Yokenella regensburgei* 1 件、*Klebsiella pneumoniae* 1 件、*Enterobacter cloacae complex* 1 件であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	男	60 歳代	腹膜炎	手術部位感染	国内
2 月	男	80 歳代	肺炎	その他	国内
4 月	女	90 歳代	発熱	不明	国内
5 月	男	80 歳代	発熱	不明	国内
6 月	男	50 歳代	尿路感染症	不明	国内
7 月	女	90 歳代	中耳炎	その他	国内
11 月	女	50 歳代	尿路感染症	不明	国内
11 月	男	70 歳代	腹腔内膿瘍	手術部位感染	国内
11 月	男	90 歳代	なし	以前からの保菌	国内
12 月	男	50 歳代	菌血症、敗血症	医療器具関連感染、手術部位感染、その他	国内

## ⑨ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

年間届出数は 5 件であった。内訳は、性別では男性 2 件、女性 3 件であり、年齢別では 10 歳未満 2 件、40 歳代 2 件、60 歳代 1 件であった。

推定感染地域は、国内 4 件、不明 1 件で、推定感染経路は、その他 1 件、不明 4 件であった。検出された病原体では、Varicella-zoster virus（水痘-帯状疱疹ウイルス）1 件、不明 4 件であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	女	10 歳未満	発熱、嘔吐、けいれん、意識障害、髄液細胞数増加	その他	国内
5 月	女	10 歳未満	発熱、嘔吐、意識障害、けいれん	不明	不明
8 月	男	40 歳代	発熱、頭痛、嘔吐、項部硬直、意識障害、髄液細胞数増加、片麻痺・しびれ	不明	国内
8 月	男	60 歳代	発熱、けいれん、意識障害、髄液細胞数増加	不明	国内
12 月	女	40 歳代	発熱、頭痛、嘔吐、意識障害、髄液細胞数増加	不明	国内

## ⑩ クロイツフェルト・ヤコブ病

年間届出数は1件で、年齢は70歳代で、性別は女性であった。

病型は、古典型クロイツフェルト・ヤコブ病で、推定感染経路及び推定感染地域は不明であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	女	70歳代	進行性認知症、錐体路症状、錐体外路症状、小脳症状、視覚異常	不明	不明

## ⑪ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

年間届出数は8件で、過去10年間で最も多かった。内訳は、性別では、男性7件、女性1件であり、年齢別では40歳代1件、50歳代1件、70歳代2件、80歳代2件、90歳代2件であった。

推定感染経路は、創傷感染3件、その他4件、不明1件で、推定感染地域はいずれも国内であった。血清群は、A群4件、G群4件であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	50歳代	ショック、肝不全、腎不全、DIC	不明	国内
3月	男	70歳代	ショック、腎不全、軟部組織炎	創傷感染	国内
3月	男	40歳代	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	創傷感染	国内
6月	男	80歳代	ショック、DIC、軟部組織炎	創傷感染	国内
7月	女	80歳代	ショック、DIC、軟部組織炎	その他	国内
7月	男	70歳代	ショック、DIC、軟部組織炎	不明	国内
8月	男	90歳代	ショック、腎不全、軟部組織炎、左人工膝関節感染	その他	国内
8月	男	90歳代	ショック、腎不全、DIC	その他	国内

## ⑫ 後天性免疫不全症候群

年間届出数は5件で前年（2件）から増加した。内訳では、性別はいずれも男性であり、年齢別では10歳代1件、20歳代3件、40歳代1件であった。

病型はAIDS2件、無症候性キャリア2件、その他（早期梅毒合併）1件であった。AIDS患者の指標疾患は、サイトメガロウイルス感染症1件、非ホジキンリンパ腫及びHIV消耗性症候群（全身衰弱又はスリム病）1件であった。

推定感染経路は性的接触（異性間2件、同性間2件、不明1件）で、推定感染地域は国内4件、不明1件であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	10歳代	なし	性的接触（異性間）	国内
6月	男	20歳代	早期梅毒、発熱	性的接触（異性間）	国内

7月	男	20歳代	発熱、体重減少	性的接触（同性間）	国内
12月	男	40歳代	左眼の視力低下	性的接触（同性間）	不明
12月	男	20歳代	なし	性的接触（不明）	国内

#### ⑬ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

年間届出数は3件であった。内訳は、性別では、男性2件、女性1件、年齢別では10歳未満2件、70歳代1件であった。

推定感染経路は、3件すべてが飛沫・飛沫核感染（経気道感染）であり、推定感染地域もすべて国内であった。

ワクチン接種歴は、4回接種2件、不明1件であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	10歳未満	発熱、肺炎、菌血症、脳膜炎	飛沫・飛沫核感染	国内
6月	男	10歳未満	発熱、肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
7月	女	70歳代	肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内

#### ⑭ 侵襲性肺炎球菌感染症

年間届出数は13件であった。内訳は、性別では男性9件、女性4件であり、年齢別では10歳未満1件、50歳代2件、60歳代2件、70歳代3件、80歳代3件、90歳代2件であった。

推定感染経路は飛沫・飛沫核感染2件、その他2件、不明9件で、推定感染地域はいずれも国内であった。ワクチン接種歴は3回接種1件、1回接種3件、接種なし4件、不明5件であった。

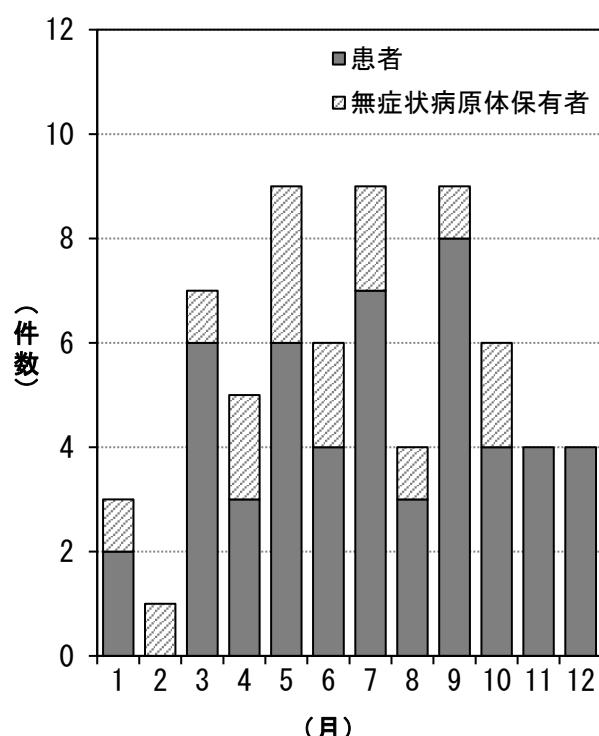
診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	女	60歳代	発熱	その他	国内
1月	男	50歳代	発熱、肺炎、菌血症	不明	国内
1月	女	70歳代	発熱、咳、肺炎、菌血症	不明	国内
2月	男	70歳代	発熱、咳、全身倦怠感、嘔吐、肺炎、菌血症	不明	国内
3月	男	90歳代	発熱、咳、肺炎	不明	国内
4月	女	90歳代	発熱、肺炎	飛沫・飛沫核感染	国内
5月	男	80歳代	腹痛	不明	国内
5月	男	80歳代	肺炎	不明	国内
7月	男	10歳未満	発熱、意識障害、大泉門膨隆、髄膜炎、菌血症	不明	国内
7月	女	60歳代	発熱、咳、全身倦怠感	不明	国内
11月	男	80歳代	咳、腹痛	不明	国内
11月	男	50歳代	発熱	その他	国内
12月	男	70歳代	発熱、咳、全身倦怠感、肺炎	飛沫・飛沫核感染	国内

## ⑯ 梅毒

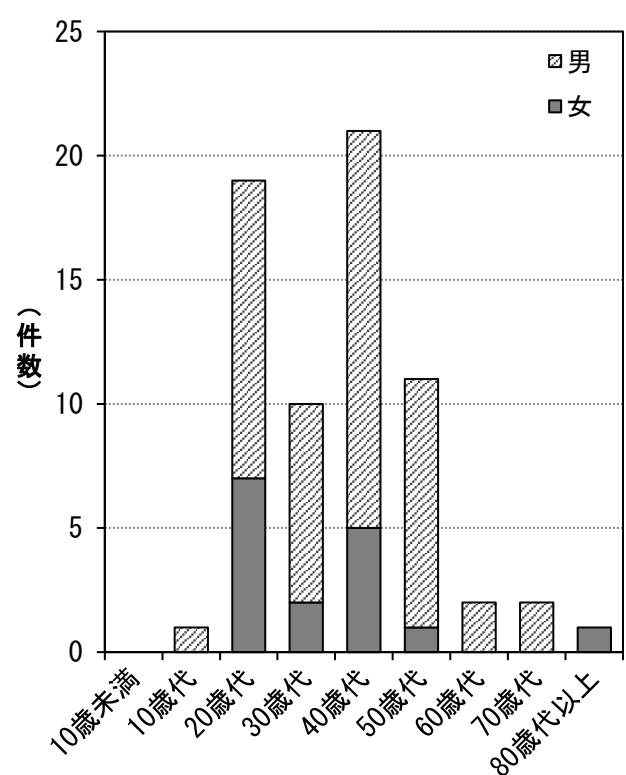
年間届出数は67件で、前年（78件）から減少した。内訳では、病型は早期顕症梅毒Ⅰ期25件、早期顕症梅毒Ⅱ期25件、晚期顕症梅毒1件、無症候16件であった。年齢別では10歳代1件、20歳代19件、30歳代10件、40歳代21件、50歳代11件、60歳代2件、70歳代2件、80歳以上1件であった。性別では男性51件、女性16件であり、性別で症状を比較した場合、「患者」の割合は、男性では約86%、女性では約44%であった。

推定感染地域は国内が59件、不明8件であった。推定感染経路は、性的接触57件（同性間2件、異性間45件、性別不明10件）、不明10件であった。

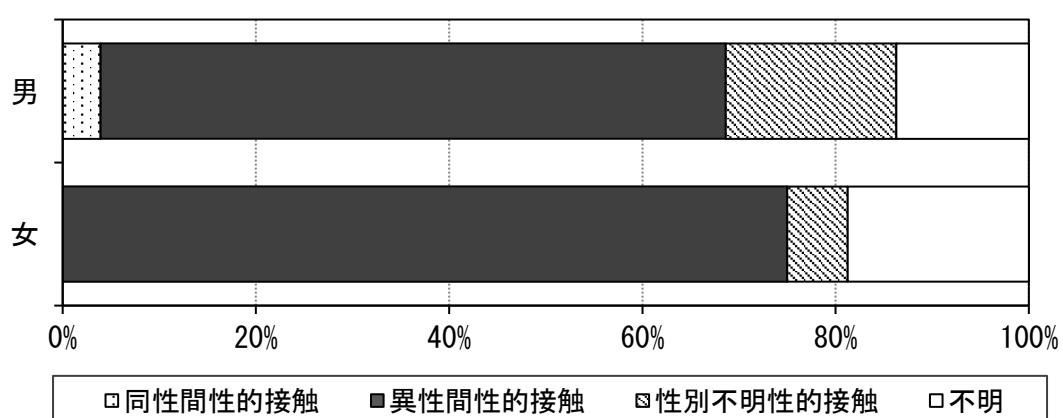
【梅毒の月別届出数】



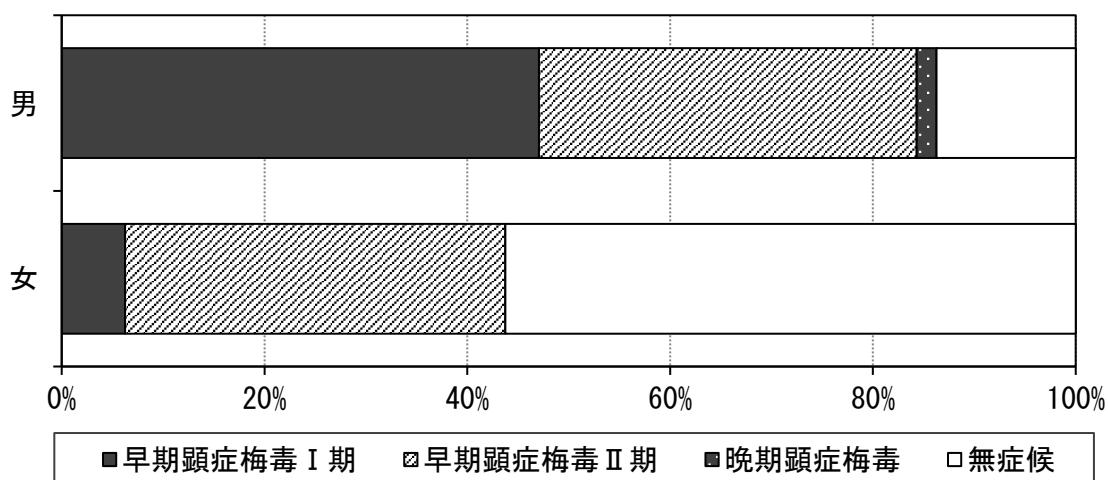
【梅毒の年齢・性別届出数】



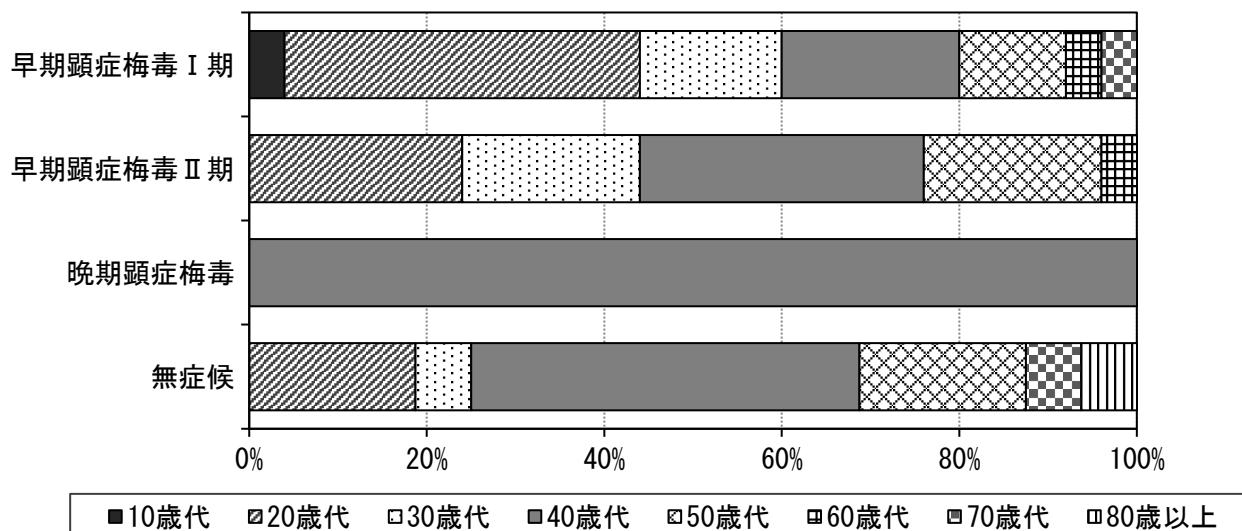
【梅毒の感染経路・性別】



【梅毒の病型・性別届出数】



【梅毒の病型・年齢別届出数】



#### ⑯ 播種性クリプトコックス症

年間届出数は5件であった。内訳は、性別ではいずれも男性であり、年齢別では50歳代1件、70歳代3件、90歳代1件であった。推定感染経路は、免疫不全5件であり、そのうち4件はステロイドの投与があった。推定感染地域はいずれも国内であった。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	50歳代	頭痛、発熱、意識障害、中枢神経系病変、真菌血症	免疫不全	国内
2月	男	90歳代	呼吸器症状、真菌血症	免疫不全	国内
5月	男	70歳代	発熱、意識障害、呼吸器症状、真菌血症	免疫不全	国内
8月	男	70歳代	頭痛、発熱	免疫不全	国内
10月	男	70歳代	頭痛、発熱、左人工膝関節感染	免疫不全	国内

⑯ 百日咳

年間届出数は42件で、前年(78件)から減少した。内訳は、性別では男性23件、女性19件であり、年齢別では10歳未満24件、10歳代16件、20歳代1件、60歳代1件であった。

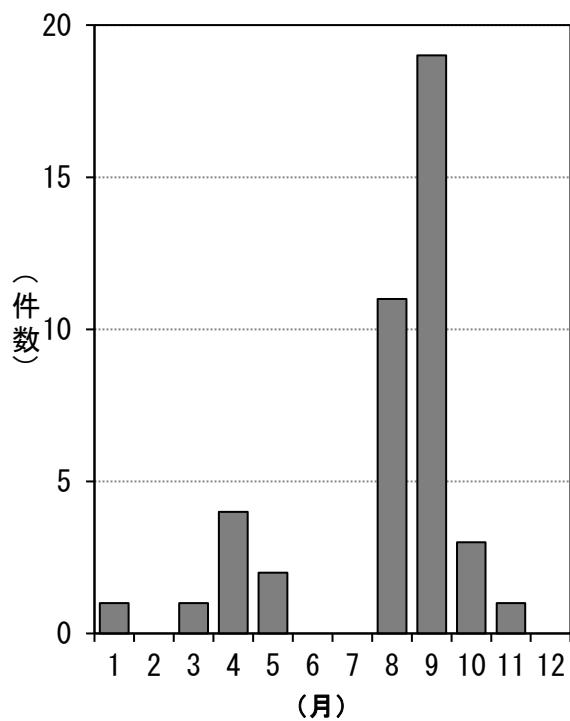
症状では、持続する咳42件、夜間の咳き込み29件、呼吸苦9件、嘔吐2件であった(重複あり)。

推定感染経路は家族内感染33件、不明9件で、推定感染地域はすべて国内であった。

百日咳含有ワクチン接種歴は、4回接種20件、3回接種1件、不明21件であった。

診断方法は、抗原検査41件、遺伝子検査1件であった。

【百日咳の月別届出数】



【百日咳の年齢・性別届出数】

